

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 作成資料が実際の会議で使われないと、訓練が進むにつれ、資料内容の検討が雑になっていった。</li> </ul>	<p>まとめた冊子の配布か訓練直前の説明を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一部の会議で良いので、参加者が作成した資料を使用することにより、目的意識と力量の向上が期待できる。</li> </ul>
--	--

エ EMC訓練

おおむね手順通りの活動が行われていたが、更に実務的な訓練も望まれる。

■ 良好事例と助長策 ■

良好事例	助長策
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ERC放射線班，EMC測定分析担当との連携，情報共有，モニタリング結果定時報，実施計画，指示書の確認は，手順通り適時になされていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 更に練度を上げるため，EMCが判断し，企画・計画，実行指示，測定結果等に基づく避難地域の判定，避難経路・手段の変更提案，モニタリング要員の被ばく対応などを含む訓練も一案である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ モニタリングポスト位置図に可搬型モニタリングポスト，風向，通行不能などを表示して情報共有が図られていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ さらに写真等により記録保存し，モニタリング活動の実績や教訓事項の案出等に活用できるように整備することが望ましい。</li> </ul>

■ 改善すべき事項及び今後の対策 ■

改善すべき事項	今後の対策及び当該方法を推奨する根拠
特記事項なし	特記事項なし

(4) 住民避難関係

ア 全般

全体的には、避難行動は大きな遅れがなく予定通り実施されたが、細部では準備不足や連携不足などによる課題事例が見られた。

■ 良好事例と助長策 ■

良好事例	助長策
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体的にはおおむね事前の計画どおりの避難や一時移転が実施された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回は限られた人数であったので、大きな遅滞やトラブルがなかったが、実災害時には、混乱や想定外の事態が考えられるので、訓練の繰り返しによる習熟とともに、より厳しい条件での訓練企画が望まれる。</li> </ul>

■改善すべき事項及び今後の対策■

改善すべき事項	今後の対策及び当該方法を推奨する根拠
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 要員アンケートでは、事前説明と異なる状況や、役割の認識不足による連携の支障等が報告されている。</li> <li>● サーバイメーターの電池入れ忘れやヨウ素剤の配布漏れなど、重大な錯誤の事例が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要因としては、事前説明の欠席、情報提供の遅れ、手順書の内容不足、事前打合せやリハーサルが行われていないことなどが考えられる。訓練は手順を習得する場ではなく、事前に習得したことを実践し、実効性を検証する場であるので、事前の対策が重要である。対策案としては、手順書の充実と周知、要素訓練、事前検討会、リハーサル等の実施が考えられる。</li> </ul>

イ PAZ避難

避難行動は遅滞なく円滑に行われた。

■良好事例と助長策■

良好事例	助長策
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集合場所設営、バスへの誘導などが適切に実施されており、避難行動は円滑かつ予定時刻に実施された。</li> <li>○ 本部への報告は、無線により適時に実施されていた。事前に準備したシナリオ（ト書き）に従って実施したと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回は避難者が20名程度で、統制が取れたが、実際の災害時に備え、より多くの人数での訓練も実施することが望まれる。</li> <li>・ 報告すべき事項と時期等を冊子にまとめ携行すること、一覧表として集合場所、バス車内等へ掲示することなどにより、継続と徹底を図る。</li> </ul>

■改善すべき事項及び今後の対策■

改善すべき事項	今後の対策及び当該方法を推奨する根拠
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高速道路走行時にシートベルト着用の指示がなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原子力災害対策に限らず、住民の安全確保の上で必要な事項を洗い出し、手順書等にまとめ周知し、リハーサルを行うことにより、住民安全に対する認識を高めることが期待できる。</li> <li>・ また、要点をまとめた冊子を常時携行し、逐次気付き事項を書き入れ、反映、共有することも効果的であると考えられる。</li> </ul>

ウ UPZ避難（薩摩川内市）

■ 良好事例と助長策 ■

良好事例	助長策
○ 国からの指示等の伝達，要所での本部への報告は問題なく実施され，受付もスムーズであった。	・ PAZ避難と同様。

■ 改善すべき事項及び今後の対策 ■

改善すべき事項	今後の対策及び当該方法を推奨する根拠
● 全体的に職員の住民に対するコミュニケーションが足りないように見えた。	・ 今回は訓練なので無事，時間通りに避難することができたが，実災害時の住民の精神状態を考えるとより一層，コミュニケーションを図り，気持ちを落ち着かせる必要があると考えられる。

エ UPZ避難（日置市）

■ 良好事例と助長策 ■

良好事例	助長策
○ バス車内での説明は，次はどこへ，何のために，何をする等，わかりやすく明確なものであった。	・ 良好事例として手順書等に具体的に記載し，周知することにより，定着が期待できる。

■ 改善すべき事項及び今後の対策 ■

改善すべき事項	今後の対策及び当該方法を推奨する根拠
● バス出発直後，住民へ説明すべきタイミングで担当職員の携帯に市民から電話があり，この対応で約6分間バス内での説明がなかった。	・ 実災害時にも発生し得るので，説明代理者を設定しておくなどの対策を講じ，手順書等に記載，周知し，訓練等で実践することが望まれる。